

このまちの100年

「大宮」

昭和に入り、複数の路線が大宮駅に乗り入れるようになることで、鉄道の要衝として発展。明治期の製糸会社の進出もあり、鉄道と製糸の2つの産業が大宮を大きく発展させていきました。



大正3年頃

出典：さいたま市アーカイブズセンター

大宮駅待合所正面（現在の大宮駅東口）。大宮駅は、地元有志による誘致運動により開設された



大正6年頃

国立国会図書館蔵

片倉組大宮製糸所。工場長は大宮市の初代市長となり、教育振興にも取り組んだ



昭和7年頃

国立国会図書館蔵

大宮操車場。敷地の大部分は、さいたま新都心として再開発された



昭和10年頃

さいたま市提供

中山道の大宮宿跡付近の様子。江戸期には、この一帯に本陣・脇本陣が置かれていた



昭和20年代

さいたま市立博物館提供

大宮駅構内の踏切の様子。駅の東西を結ぶ重要な道となっていた



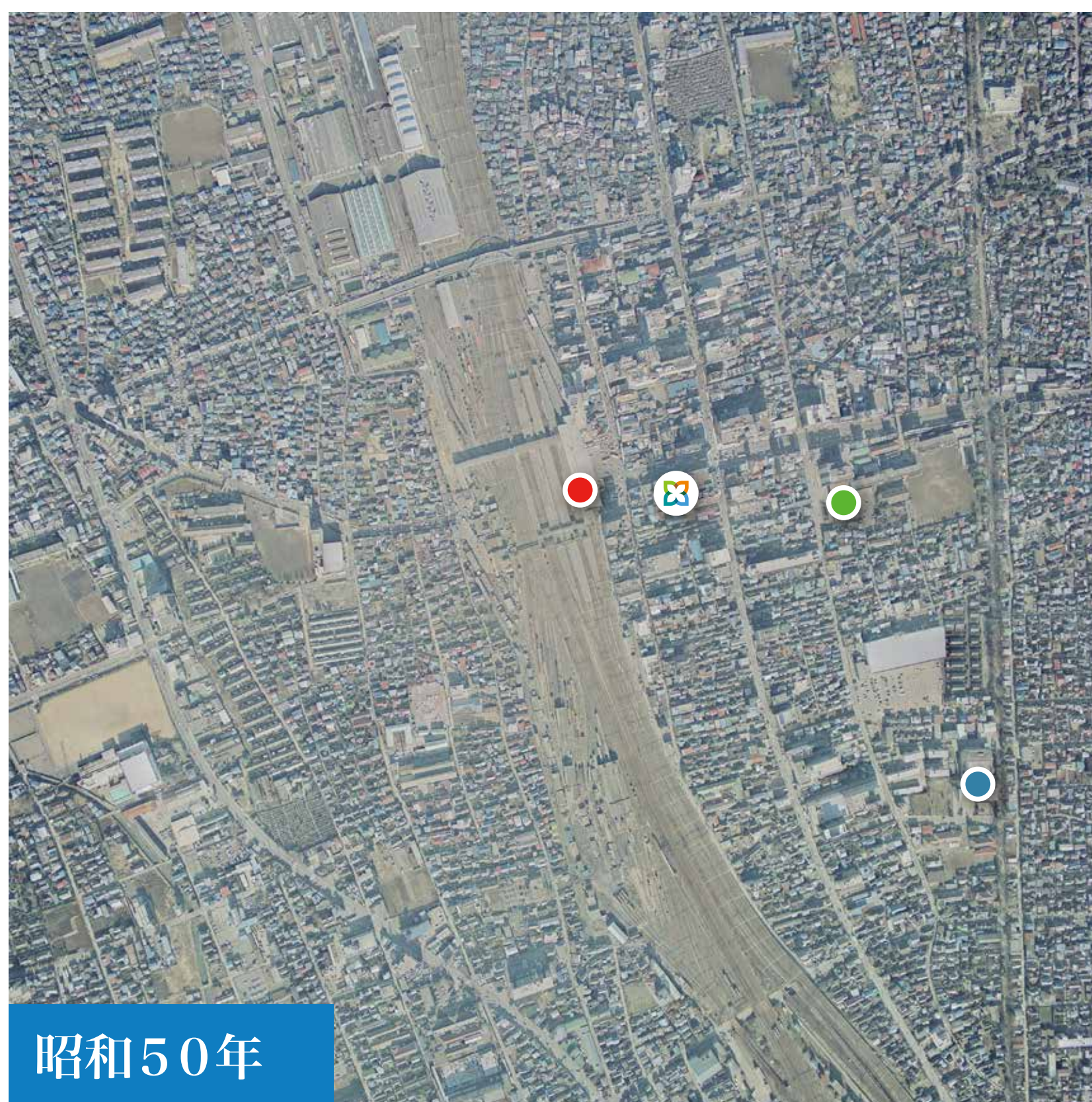
昭和30年代

大宮駅東口駅前、駅舎から東方面を望む

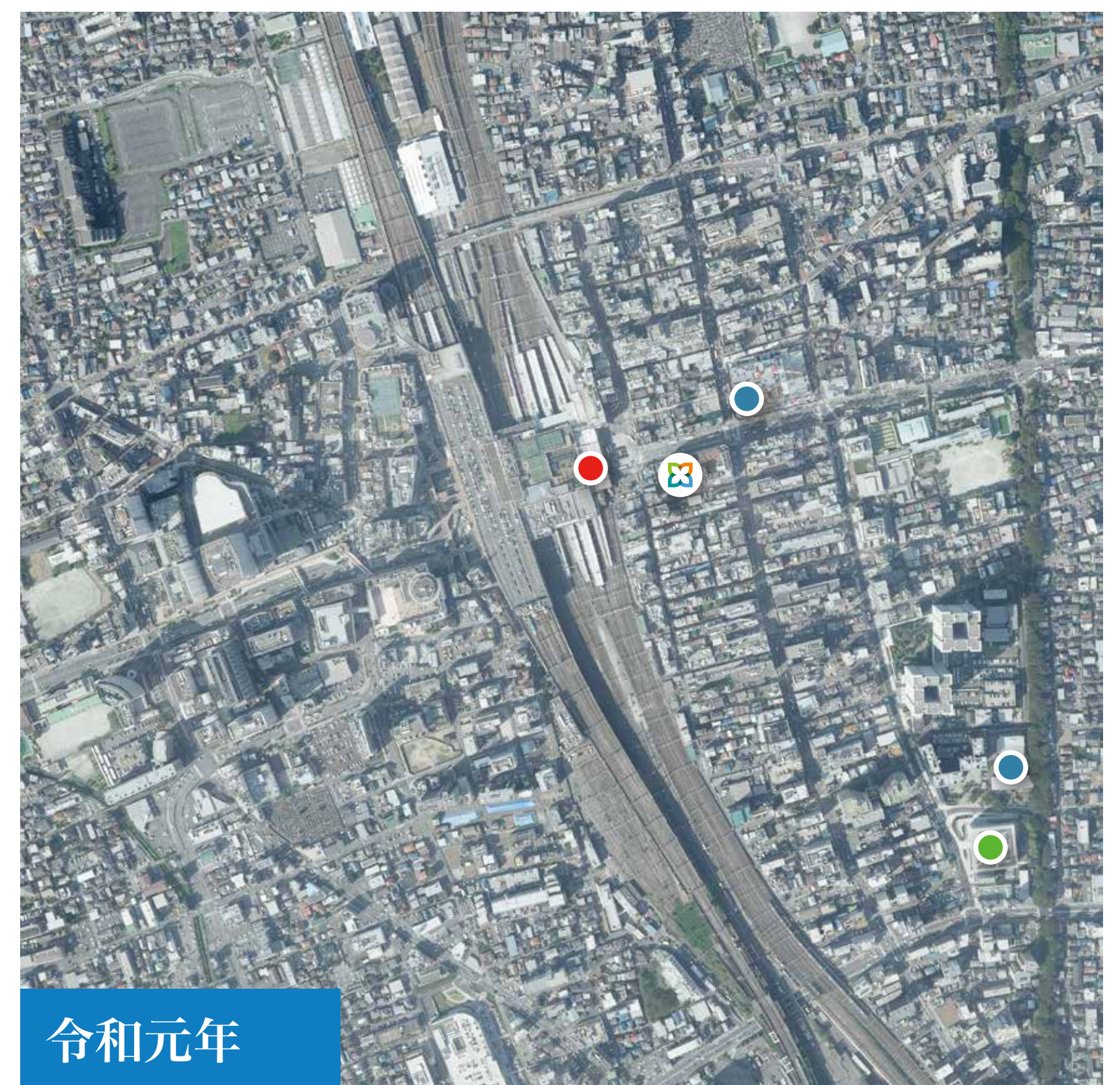
上空からみた大宮エリア



昭和21年



昭和50年



令和元年

●：現在地
●：大宮市民会館／さいたま市民会館おおみや（～令和4年3月）／RaiBoC Hall（令和4年4月～） ●：大宮市役所／大宮区役所 ●：大宮駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」（一部加工）

編集：株式会社コロモチ